

平成28年度 学校自己評価システムシート(県立杉戸高等学校)

目指す学校像	部活動の盛んな進学校として生徒の自己肯定感を高め、社会に貢献する人材を育成する学校。
--------	--

重点目標	<p>1 Output 学力向上、授業改善に向け、効果的な取組を推進する。</p> <p>2 Pride 生徒の規範意識を向上させ、杉高生としてのプライドを身に付けさせる取組を推進する。</p> <p>3 Information 中学校・地域関係者の本校に関する理解を深める取組を推進する。</p>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	事務局(教職員)	名
	生徒	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(2月1日現在)			実施日(平成29年 月 日)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価
1	<p>Output</p> <p>生徒の学習態度は素直であるものの、自発的な意欲が不十分である。授業アンケートでは、積極的に質問する生徒は3年生でも3割、板書以外にメモを取る生徒は6割にとどまる。 今後は生徒のアウトプットを引き出すためにアクティブラーニングの実践例に学ぶ必要がある。</p>	<p>○生徒のペアワーク、グループワークをテーマに授業研究を行う。</p> <p>○生徒及び保護者の進路意識を啓発する。</p> <p>○平成29年度から実施する55分授業に備え、年間指導計画を修正する。</p>	<p>○工夫事例をもとに教科ごとに授業研究を行う。そのために5月と9月に研究週間を設け、教科ごとの協議を行う。</p> <p>○1年次の3学期、2年次の2学期に国立大学希望者を対象としたガイダンスを実施する。</p> <p>○年間指導計画を授業回数が9%減少することを踏まえたものに修正する。</p>	<p>○授業研究の結果、生徒の主体的学習活動が向上し、質問、ノートについて肯定的自己評価をそれぞれ50%、75%とする。</p> <p>○国公立型センター試験出願者が30名を超える。またGMARCHにチャレンジする生徒が50名を超える。</p> <p>○各教科科目の指導計画が完成する。</p>				
2	<p>Pride</p> <p>遅刻延件数は年々減少し、平成27年度は1学級あたり月平均4.5件の水準であった。 1学年で実施した朝学習の習慣を全校に根付かせることが次の目標である。</p>	<p>○“杉高プライド”をキーワードに学校生活のあらゆる場面で、自信と誇りを持った行動をとらせる。</p> <p>○学校外活動においても積極的に参加する生徒を育てる。</p>	<p>○39期生で実施した朝学習の習慣づけを40期生でも実施する。</p> <p>○学校外活動において自己をアピールする機会を与えるべく、生徒に積極的に働きかける。</p>	<p>○全校の年間遅刻延件数を960件未満(1学級年間延40件、平均月4件)とし、「遅刻のない学校」を宣言する。</p> <p>○海外派遣事業、進路セミナーなど、県教委の主催する事業に20人以上の生徒がチャレンジし、90%以上が参加満足度に肯定的自己評価をする。</p>				
3	<p>Information</p> <p>平成27年度の学校説明会事前申込者合計は1,306人だった。今年も多くの中学生に杉高に関心を持ってもらえるよう、広報に努める。 ホームページの部活動のページを全顧問が適宜更新できるようにするのが課題である。</p>	<p>○ホームページの部活動情報更新を組織的に行う。</p> <p>○地元中学校へ杉高の状況が十分に伝えられる。</p> <p>○生徒が地域の行事に参加する体験をする。</p>	<p>○全ての部活動顧問がホームページ更新にあたる。</p> <p>○広報部から『杉高だより』を発行し、杉高生の生活をビジュアル的に伝える。</p> <p>○小中学校との交流、地域のイベントへの協力によって生徒の体験を豊かにする。</p>	<p>○すべての部活動の更新を年平均2回以上とする。</p> <p>○『杉高だより』を5回以上発行し、学校説明会への参加人数が昨年度を上回る。</p> <p>○地域行事に参加する生徒が全校生徒の10%を超える。</p>				